

canté形、cantaba形と時間的限定性

山村, ひろみ
Kyushu University

<https://hdl.handle.net/2324/1932619>

出版情報：イスパニカ．41，pp.53-66，1997-12．日本イスパニヤ学会
バージョン：
権利関係：



canté 形, cantaba 形と時間的限定性*

山村ひろみ

0. はじめに

スペイン語の canté 形と cantaba 形をアスペクト範疇における最小対と見なす説（以下、アスペクト説）は、これら二形式が時間的限定性の表示の有無に関して対立するという点をその根拠の一つとして提示する。

1) a. María vivió cuatro años en Japón.

b. *María vivía cuatro años en Japón.

すなわち、アスペクト説によれば、canté 形は当該事行をその開始・終結を明示する形で表出するのに対し、cantaba 形はそうではないということになり、その違いが 1) における cuatro años という期間を限定する副詞句との共起の可能性と関わるというのである。しかし、canté 形、cantaba 形と期間限定副詞句との共起関係を詳細に観察してみると、このアスペクト説の主張とは相容れない事象が認められ、その有効性が万全でないことが分かる。

本稿の目的は、まず、canté 形と cantaba 形が示す期間限定副詞句との共起のあり方を観察することによって、これら二形式と時間的限定性の関係を改めて検討することにある。そして、その結果、canté 形と cantaba 形を時間的限定性をめぐる最小対と見なすのは実証的に問題があること、また、その実態をより整合性のある形で説明するためには、当該二形式を唯一の素性の有無をめぐる最小対と考えるアスペクト説よりは、cantaba 形は canto 形と平行した機能を持つが、canté 形はそのような平行関係を持たない独立的な形式とする時間関係説の方がより有効性のあることを示していく。

1. 先行研究の解釈

canté 形と cantaba 形が時間的限定に関して対立するという主張は、これら二形式をアスペクトをめぐる最小対と考える説の根拠の一つとしてよく引き合いに出される。ここでは、そのような立場の先行研究が当該二形式と時間的限定性の関係をどのように解釈しているかを簡単にまとめ、次節で行われる観察

の出発点としたい。

RAE (1973) は動詞パラダイム全体を完了と不完了の aspekto に二分し、完了 aspekto には全複合形と *canté* 形が、不完了 aspekto にはそれ以外のすべての単純形が属すとしている。従って、*canté* 形と *cantaba* 形はそれぞれ異なる aspekto を持つことになるのだが、その違いは次のように説明されている。

“En los tiempos imperfectos, la atención del que habla se fija en el transcurso o continuidad de la acción, sin que le interesen el comienzo o el fin de la misma. En los perfectos, resalta la delimitación temporal.” (RAE 1973 : 462)

上の記述によれば、*canté* 形では当該事行の *delimitación temporal* が際立つのに対し、*cantaba* 形はそうではないということになる。この *delimitación temporal* をどう解釈するかが問題になるが、一般的には、以下の Butt & Benjamin (1994) の記述に見られるように、当該事行の開始と終結を示すものと理解されているようである。

“14.4.4. Preterite for events occurring with a finite period.

The preterite tense must be used for an event that continued for a finite period of time and then ended. By ‘finite’ is meant a period of time of a specific length, i.e. whose beginning and end are known: (...)” (Butt & Benjamin 1994 : 212)

“ [The imperfect form is used] To indicate states or actions that continued in the past for an unspecified period.” (Ibid: 214)

Butt & Benjamin の説明では、開始・終結が特定の過去の事行に対しては *canté* 形が、また、そうではない過去の事行に対しては *cantaba* 形が用いられるということになる。

さて、以上の *canté* 形と *cantaba* 形の時間的限定性に関する先行研究の解釈に従うならば、開始・終結が明らかな一定の期間を示す副詞句と共に起るのはいずれも *canté* 形であり *cantaba* 形ではないという仮説が立てられる。次節では、この仮説の有効性を検証するための実態調査を実施し、改めて当該二形式の機能的差異と時間的限定性の関係を検討することにする。

2. *canté* 形、*cantaba* 形と期間限定副詞句との共起の実態

この節では前節で立てられた仮説の妥当性を検証するための調査を実施し、

その結果をまとめる。調査の方法としては、主たる資料体としてスペインで発行されている週刊誌 *Cambio* 16 を用い、そこに出現する *canté* 形と *cantaba* 形を共起した期間限定副詞句の種類別に分類するという形を取った。その際、扱う期間限定副詞句の範囲をどうするかが問題となったが、今回は限定された期間を最も明瞭に示すと思われる *durante* + 時間量名詞句 / 期間名詞句、及び *durante* を伴わない時間量名詞句（以下、ゼロ + 時間量名詞句）だけを対象とすることにした。以下、例文にはそれが出現した週刊誌の号数とページを付けている。また、例文の中には筆者自身が作成しスペイン語話者のチェックを受けたものも含まれているが、それらにはその旨が記されている。

2.1. データ分析

2.1.1. *durante* + 時間量名詞句との共起

ここで扱う副詞句は前置詞 *durante* と *día*, *mes*, *año* といった時間区分を表す名詞に数量を表す限定詞が付加されたものである。アスペクト説に従うならば、その明らかな限定性からこの副詞句と共起するのは専ら *canté* 形であることが予想されるが、実際、今回の調査でもこのタイプの副詞句と共起したのは多くの場合 *canté* 形であった。

- 2) Le *escuché* durante dos horas y al final, no me fue muy fácil recoger el mensaje que había recibido. (1266 : 35)
- 3) *Soporté* durante mucho tiempo las críticas de otros representantes políticos cuando se estaba construyendo el AVE. (1264 : 21)
- 4) Nuestra relación con España durante muchos siglos *fue* de subordinación y abandono. (1283 : 10)
- 5) Durante unos años *fue* la única mujer en el gremio. (1280 : 27)

しかし、次の例文が示すように、このタイプの副詞句と共起する *cantaba* 形がないわけではない。

- 6) Durante mucho tiempo los personajes te *venían* a vender un disco y un libro y la gente se hartó, (...). (1271 : 78)
- 7) Durante siglos, el principal, si no único, agente de la acción social rusa *era* un Estado todopoderoso que ~ . (1282 : 88)
- 8) Durante esos años *vivía* en un pequeño apartamento, (...) (1284 : 72)

上記例文のうち、2) の副詞句の示す限定期間は開始・終結が明瞭だが、そ

れ以外の副詞句の限定期間は開始・終結が曖昧で不特定なものと考えられる。そして、特に *cantaba* 形と共起した副詞句の期間がどれも不特定であることに注目するならば、この形式が出現するのは当該副詞句の期間が不特定な場合に限られると主張することも可能に思われる。しかし、その主張は以下の例文が示すように、*cantaba* 形は特定の期間を示す副詞句とも共起できるという事実によって無効であることが分かる。

9) Durante esos cuatro años *vivía* en un pueblecito. (山村作成)

他方、*cantaba* 形が出現したデータの中には、次の例文のように期間限定を示す副詞句が習慣を表す文の一部になっているものもある。

10) Brasil es reiteradamente señalado como el país de la mayor desigualdad. Allí, el niño de 7 años Damiao *trabajaba* durante diez horas en los campos de algodón para mantener a su abuela.
(1248 : 62)

アスペクト説においては、10) に見られるような *cantaba* 形と期間限定副詞句との共起は *cantaba* 形の習慣用法の中で扱われ、時間的限定性の欠如の問題とは別個に処理されてきた。これはアスペクト説が *canté* 形と *cantaba* 形の機能的差異を考える上で、時間的限定性の有無と過去の習慣性の有無という二つの異なる基準を設けていることを示すものである。しかし、そうすると新たに過去の習慣という基準が何を示すかが問題となってくる。もし習慣という用語が単に当該事行の反復を示すのであれば、それは Butt & Benjamin (1994 : 213) も指摘するように *canté* 形によっても表出可能であり、*cantaba* 形に特有の機能とは言えなくなる。また一方、Doiz-Bienzobas (1995 : 107-108) の言うように、*cantaba* 形によって表出された習慣的事行が発話時におけるその無効を含意するものとしたら、それはこの形式のもう一つの機能である時間的限定の欠如と対立するものにもなってしまう。このように、従来自明とされてきた過去の習慣表示という基準にはいくつかの根本的問題があるのだが、それらはいずれも、*cantaba* 形の機能を前述の二つの異なる基準で分析することの困難さを示していると思われる。このことから本稿では、同じ *cantaba* 形によって表出された事行は、その意味解釈上の違いが何であれ、同じ一つの枠組み（基準）で分析すべきとし、上で見た期間限定副詞句と共起した *cantaba* 形の二つの異なるタイプ（習慣用法とそうでないもの）も同一の枠組みで処理することにしたい。

2.1.2. *durante*+期間名詞句との共起

ここで扱う副詞句は前置詞 *durante* と出来事を示す名詞句からなるものである。この副詞句は先に見た *durante*+時間量名詞句とは違い *telic* な事行とも共起可能である。

- 11) La primera vez aproveché la oportunidad de enrolarme en una vuelta al mundo en jeep junto a tres periodistas norteamericanos y un fotógrafo suizo, que *falleció* en Camboya durante el recorrido. (1245 : 71)

前述の *durante*+時間量名詞句は当該事行が成立した後のそれが真である期間を示すものであるため、それと共起可能な事行は通常 *atelic* なものに限られる。しかし、*durante*+期間名詞句の場合にはそのような制約がなくなり *telic* な事行も *atelic* な事行と同様に共起可能となる。また、この *telic* な事行と共起した当該副詞句は、期間を示すというよりは当該事行の成立時を示すという特徴を持つ。

さて、この *durante*+期間名詞句も前述の *durante*+時間量名詞句と同様に、*canté* 形、*cantaba* 形のどちらとも共起することができる。

- 12) Porque el director era mi padre y *discutí* mucho con él durante todo el rodaje. (1224 : 70)
- 13) Durante el rodaje, ¿qué hacía en su tiempo libre? (1240 : 93)
- 14) Durante la Segunda Guerra Mundial *fue* utilizado por la resistencia contra los nazis (...). (1243 : 26)
- 15) Durante la Guerra Fría las pruebas nucleares se *intentaban* mantener en secreto. (1249 : 95)

durante+期間名詞句と共起する *cantaba* 形についても当該副詞句が時間的に不特定である点を問題にすることができよう。しかし、上で見たように、*cantaba* 形によって表出された事行が当該副詞句の示す期間以外で無効になるとするならば、共起する限定副詞句の不特定性と当該事行の終結性の欠如を関連づけて *cantaba* 形の出現を正当化するようなことは難しいと思われる。また、*cantaba* 形と共起した *durante*+期間名詞句の中にも以下の例文のように、それが当該文の表す過去の習慣の一部となっているものがある。

- 16) Rubén García, director del museo, afirma que a principios de siglo *salían* a covar durante la luna llena de la Semana Santa, porque lo relacionaban con la redención de Jesucristo. (1240 : 66)

以上のことから、問題を *canté* 形と *cantaba* 形との共起のあり方に限るならば、*durante*+期間名詞句と *durante*+時間量名詞句の間に大きな違いはないと考えられる。

2.1.3. ゼロ+時間量名詞句との共起

次に前置詞 *durante* を伴わずに限定された期間を表すゼロ+時間量名詞句との共起関係を見てみよう。

17) *Viví* en Cuba dos años y medio. (1245 : 77)

18) *María vivió* mucho tiempo en Madrid. (山村作成)

19) La negociación con el Partido Popular *duró* dos meses y fue muy dura. (1281 : 8)

20) Fui criado en la comunidad latina del Sur de California y *pasé* un tiempo en España. (1266 : 103) *

ゼロ+時間量名詞句と共起する形式は特に *canté* 形であることが多い。しかし、だからと言って、ゼロ+時間量名詞句が *cantaba* 形と共起することがないわけではない。

21) La primera versión del montaje *duraba* dos horas, y hubo que quitar más de 30 minutos. (1261 : 71)

22) *Pasaba* mucho tiempo con mis amigos y la familia, mientras nadie se acordaba de mí. (1260 : 103)

21) は主語が指示する対象物の属性を示したものであり、22) は文脈から主語たる人物の習慣に言及したものと考えられる。アスペクト説ならば、この二文ともいわゆる *cantaba* 形の習慣用法として処理すると思われるが、先にも述べたように、本稿はこのような習慣用法も他の用法と同じ枠組みで処理すべきと考えるので、これらを別個に扱うことはしない。

さて、以上のようにゼロ+時間量名詞句も *cantaba* 形と共起できるのだが、そのあり方は *durante* を伴った副詞句の場合とは異なっている。ゼロ+時間量名詞句と共起可能な *cantaba* 形の表出する事行には制約があるからである。

23) **María vivía* cuatro años en Madrid. (山村作成)

24) **María vivía* mucho tiempo en Madrid. (山村作成)

筆者のインフォーマント調査によれば、17), 18) を *cantaba* 形に変えた 23), 24) は 21), 22) の場合とは異なり非文となってしまう。このように共起するゼロ+時間量名詞句の特定/不特定に拘らず、*cantaba* 形による表出が可能な事行と不可能な事行とがあるということは、この副詞句と *cantaba* 形との

共起の可能性がただ当該事行の時間的限定性の有無によって判断できるものではないことを示すものと思われる。

2.2. まとめと問題点

以上、限定された期間を表す副詞句と *canté* 形, *cantaba* 形の共起関係を見てきた。その結果は次のようにまとめられる。

- (1) *durante*+時間量名詞句, *durante*+期間名詞句は、その表示期間の特定／不特定に拘らず *canté* 形と *cantaba* 形のどちらとも共起する。
- (2) ゼロ+時間量名詞句も、その表示期間の特定／不特定に拘らず *canté* 形, *cantaba* 形のどちらとも共起できる。しかし、ゼロ+時間量名詞句の場合、それと共起可能な *cantaba* 形によって表出される事行には制約がある。

(1)は *canté* 形と *cantaba* 形の機能的差異を時間的限定性の有無と対応させて考えるアスペクト説に対する実証的な反論となる。また、(2)は、ある事行が *cantaba* 形によって表出されるか否かは、当該事行の時間的限定性の有無以外の要因による可能性があることを示したものと言えよう。これらの結果はどちらも、先に紹介した *canté* 形と *cantaba* 形を時間的限定性に関する最小対と見なすアスペクト説には有効性がないことを示したものと考えられる。しかし、それでは、上記の結果を説明するためには新たにどのような枠組みを設定すればよいのだろうか。次節ではその一つとして山村 (1996 a, 1996 b) で提案された時間関係説を取り上げ、その有効性を検討していきたい。

3. *canté* 形, *cantaba* 形の時間関係的解釈と時間的限定性

3.1. 山村 (1996a, 1996b) における *canté* 形, *cantaba* 形の分析

山村 (1996a, 1996b) は Rojo (1974) で提起された *temporalidad lingüística* という概念に従い、*canté* 形, *cantaba* 形の機能をそれぞれ次のように規定した。

$\text{canté} = \text{O} - \text{V} = \text{O} \ (\sim \text{Prop.} \ \& \ \text{Prop.}) \quad \text{cantaba} = \text{PoV}$

O は発話時, P は既定の過去時, また, -V は前時性, oV は同時性を示す。従って、上の公式によれば *canté* 形は当該事行が発話時と前時関係にあることを、また、*cantaba* 形は当該事行が既定の過去時と同時関係にあることを示す。ただ、この時 *canté* 形の前時性が ($\sim \text{Prop.} \ \& \ \text{Prop.}$) と書き換えられている点に注意されたい。これは -V の示す前時性が当該事行命題の不成立から成立への変化を示すことを表したものである。つまり、*canté* 形の示す前時性とは、

発話時以前において、その事行の不成立から成立への変化が生起したことを示すものに他ならないのである。また、cantaba 形の PoV が canto 形の機能である OoV と平行関係にある点も重要である。すなわち、cantaba 形と canto 形はどちらも基準時に対して同時関係 oV を持ち、違いはただその時間関係が設定される基準時にあると解釈されているのである。これは、その基準時である既定の過去時 P を別にすれば、cantaba 形が canto 形に書き換え可能であることを示すものでもある。

以上の分析が従来のアスペクト説と最も異なっているのは、canté 形と cantaba 形を最小対と見なしていない点である。上の公式でも明らかのように、これら二形式は基準時、それに対する時間関係のどちらにおいても共通項を持っていない。このことから canté 形と cantaba 形がある素性の有無をめぐる最小対となることはないのである。以下では、当該二形式をこのように規定した場合、その期間限定副詞句との共起がどのように解釈されるのかを見ていく。

3.2. canté 形と期間限定副詞句との関係

前節の山村の分析（以下、時間関係説）に従った場合、canté 形とそれと共に起した期間限定を示す副詞句の関係は次のように分析される¹⁾。

- 2)' Le *escuché* durante dos horas y ~. (1266 : 35)
= Le *escuché* + Adv.T. (durante dos horas)
= 0 (~ Prop. [yo escucharle] & Prop. [yo escucharle])
+ Adv.T. (durante dos horas)

上の分析によれば、canté 形は [yo escucharle] という命題の成立を示すだけで、その終結（限定性）については何も言及していない。他方、期間限定の副詞句はその成立した事行に付加され、当該事行の有効期間を限定している。つまり、この分析に従うならば、当該事行の時間限定性は canté 形によって示されるのではなく、それに付加された副詞句の限定的意味に因るということになる。以上の分析は、durante + 期間名詞句、ゼロ + 時間量名詞句と共に起した canté 形にも同様に当てはまる。

- 11)' ~ y un *fotógrafo* suizo, que *falleció* en Camboya durante el recorrido. (1245 : 71)
= *falleció* + Adv.L. (en Camboya) + Adv.T. (durante el recorrido)
= 0 (~ Prop. [él fallecer] & Prop. [él fallecer]) + Adv.L. (en Camboya) + Adv.T. (durante el recorrido)

17)' *Viví en Cuba dos años y medio.* (1245 : 77)

= Viví en Cuba + Adv.T. (dos años y medio)

= O (~ Prop. [yo vivir en Cuba] & Prop. [yo vivir en Cuba])
+ Adv.T. (dos años y medio)

前述したように、durante+期間名詞句は telic 事行と共起することができるが、その理由は11)'の分析によって容易に理解されるだろう。すなわち、当該副詞句は [él fallecer] という命題に付加されたものではなく、その成立を表す文に付加されたものであり、それが durante+期間名詞句を期間限定の副詞句というよりは当該事行の成立時を示す副詞句と解釈される要因となっているのである。なお、ゼロ+時間量名詞句と共起した canté 形の分析は durante+時間量名詞句と共起した場合と実質的には同じである。

3.3. cantaba 形と durante+時間量/期間名詞句との関係

次に cantaba 形と durante+時間量/期間名詞句との関係を考えてみる。時間関係説から見た durante+時間量/期間名詞句と共起した cantaba 形の解釈で重要なのは、当該副詞句の示す限定期間が cantaba 形の出現に不可欠な P、つまり、既定の過去時と見なされるという点である。

9)' *Durante esos cuatro años vivía en un pueblecito.* (山村作成)

= P (durante esos cuatro años) oV

= P (durante esos cuatro años) [vive en un pueblecito]

時間関係説では cantaba 形は既定の過去時 P に対して同時関係を持つものと分析される。従って、cantaba 形が出現するにはその P に相当するものが必要であり、かつ、当該事行はそれに対して同時関係を示す canto 形による置換が可能でなければならない。これらのことを踏まえて9)を分析したのが9)'である。それによれば、当該副詞句はそれと共起した cantaba 形の P と見なされ、cantaba 形によって表出された当該事行はその P に対して同時関係を持つ canto 形に置き換えられている。この分析は durante+期間名詞句と共起した cantaba 形についても有効である。

15)' *Durante la Guerra Fría las pruebas nucleares se intentaban mantener en secreto.* (1249 : 95)

= P (durante la guerra fría) oV

= P (durante la guerra fría) [las pruebas nucleares se intentan mantener en secreto]

また、時間関係説の分析によれば、習慣用法の *cantaba* 形と共起した当該副詞句も同一の方法で分析されることになる。

- 10)' *Allí, el niño de 7 años Damiao trabajaba durante diez horas en los campos de algodón para mantener a su abuela.* (1248 : 62)
= P (文脈中の既定過去時) oV
= P (文脈中の既定過去時) [*el niño de 7 años, Damiao trabaja durante diez horas en los campos de algodón ~*]
- 16)' *~ a principios de siglo saltan a covar durante la luna llena de la Semana Santa, ~ .* (1240 : 66)
= P (a principios de siglo) oV
= P (a principios de siglo) [*salen a covar durante la luna llena de la Semana Santa, ~*]

つまり、習慣用法の *cantaba* 形と共起した時間限定の副詞句は、既定の過去時 P とは見なされず、別途に設定された P と同時関係を持つ *canto* 形によって表出される事行に付加されたものと分析されるのである。

3.4. *cantaba* 形とゼロ+時間量名詞句との関係

先にも見たように *cantaba* 形によって表出された事行でゼロ+時間量名詞句と共起できるものには制約があった。これを時間関係説によって分析すると以下ようになる。まず、当該副詞句と共起可能な事行の分析を見てみよう。

- 21)' *La primera versión del montaje duraba dos horas, y hubo que quitar más de 30 minutos.* (1261 : 71)
= P (文脈中の既定過去時) oV
= P (文脈中の既定過去時) [*la primera versión del montaje dura dos horas*]

このタイプの文ではゼロ+時間量名詞句が *cantaba* 形の出現に必要な P となることはない。そして、それは常に *canto* 形によって表出される事行に関わる要素として出現すると考えられる。また、このゼロ+時間量名詞句は上の例のように当該事行の付加詞というよりはその項と解釈されることが多く、それが前述の共起可能な事行の制約と関係しているとも思われる。次の例文を参照されたい。

- 23)'/24)' **María vivía cuatro años/mucho tiempo en Madrid.* (山村作成)

= P (文脈中の既定過去時) oV

= P (文脈中の既定過去時) [*María vive cuatro años/mucho tiempo en Madrid]

23), 24) では当該副詞句の期間の特定／不特定に拘らず, cantaba 形との共起が不可能であった。その理由は上記の分析に明らかなように, 当該副詞句が cantaba 形の出現に必要な P となりえないこと, さらに, それが canto 形によって表出される事行の項にも付加詞にもなれないことの二点にあると言える。

4. 結論に代えて

以上の観察・考察から明らかになった点は次のとおりである。

- (1) canté 形, cantaba 形と期間限定副詞句との共起のあり方から判断するならば, アスペクト説が主張するようにこれら二形式の機能的差異を時間的限定性の表示の有無と対応させて考えることはできない。
- (2) canté 形, cantaba 形と期間限定副詞句との共起の実態を解釈するには山村 (1996 a, 1996 b) の時間関係説が有効である。それによれば, アスペクト説では説明の難しい期間限定副詞句と共起する cantaba 形も以下のような統一的な形で説明可能となる。
 - a. durante を伴った当該副詞句は cantaba 形の出現に必要な既定の過去時 P になることができる。この時, cantaba 形によって表出された事行はその P に対して同時関係を持つものと解される。
 - b. cantaba 形によって表出された事行が習慣的解釈を受ける際の当該副詞句は, 既定の過去時 P に対して同時関係を持つ事行に付加されたものと解される。
 - c. ゼロ+時間量名詞句と共起可能な cantaba 形によって表出された事行に制約があるのは, この副詞句が cantaba 形の出現に必要な既定の過去時 P になれないこと, および, この副詞句をその canto 形による表出の項あるいは付加詞として認可することのできる事行が限られていることの二点に因る。

注

- 本稿は日本イスパニヤ学会第42回大会 (1996年10月19日, 神奈川大学) において「canté 形, cantaba 形と時間的限定性」という題目で発表した内容の一部に修正を加

え発展させたものである。

1) Adv.T. は当該事行の成立時, Adv.L. はその成立場所を表す副詞句を示す。

参考文献

- Butt, J. & Benjamin, C. (1994): *A New Reference grammar of Modern Spanish*, Edward Arnold.
- Doiz-Bienzobas, A. (1995): *The Preterit and the imperfect in Spanish: Past Situation vs. Past Viewpoint*, Ph.Dissertation, University of California, San Diego.
- Real Academia Española (1973): *Esbozo de una nueva gramática de la lengua española*, Espasa-Calpe, Madrid.
- Rojo, G. (1974): “La temporalidad verbal en español”, *Verba* 1, pp.68-149, Universidade de Santiago de Compostela.
- 山村ひろみ (1996a): 「canté と事行の時間構造」『獨佛文學研究』第46号, pp. 113-133, 九州大学独仏文学研究会.
- (1996 b): 「canté/cantaba のアスペクト対立に基づく解釈をめぐって」, *HISPANICA* 40, pp. 48-62, 日本イスペインヤ学会.

Canté, cantaba y la delimitación temporal

Hiromi YAMAMURA

Este trabajo tiene como objetivo someter a examen la validez de la interpretación aspectual propuesta para explicar la diferencia funcional entre la forma *canté* y la forma *cantaba*.

Según la interpretación aspectual, dichas formas se oponen directamente en torno a la delimitación temporal. En la forma *canté* resalta la delimitación temporal, o sea, el comienzo y el fin de la situación en cuestión, mientras que en la forma *cantaba* la atención del hablante se fija en el transcurso o continuidad. Sin embargo, cuando se observan detalladamente los casos en los que aparecen la forma *canté* y la forma *cantaba* con los adverbios temporales, se encuentran los ejemplos siguientes donde la forma *cantaba* aparece con el adverbio temporal que indica claramente el límite del período:

- 1) Durante esos cuatro años *vivía* en un pueblecito.
- 2) Durante la Guerra Fría las pruebas nucleares se *intentaban* mantener en secreto.
- 3) La primera versión del montaje *duraba* dos horas y hubo que quitar más de 30 minutos.

La gramaticalidad de estos ejemplos nos indica que la interpretación aspectual no puede explicar todos los fenómenos de la forma *cantaba*, de aquí que para explicar con razón esta aparición de la forma *cantaba*, necesitemos acudir a otra interpretación propuesta por Yamamura (1996a, 1996b), que dice que para aclarar la diferencia funcional entre dichas formas, es más válida la interpretación basada en la relación temporal que indica cada forma que la aspectual.

Según la interpretación de Yamamura, dichas formas se formulan como sigue:

canté = O-V = O (~ Prop. & Prop.) *cantaba* = PoV

El signo O-V [=O (~ Prop. & Prop.)] indica un hecho anterior al momento del habla. Es equivalente a la realización del cambio del no cumplimiento en el cumplimiento de la proposición en cuestión. Y el signo PoV indica que la situación en cuestión tiene la relación temporal de simultaneidad con algún momento determinado del pasado (=P) y además, aparte de la diferencia del territorio

temporal que indica el P, la forma *cantaba* tiene la misma función que la forma *canto* que se formula como OoV. Por lo tanto, en esta interpretación ninguna de las dos formas *canté/cantaba* tiene nada que ver con la delimitación temporal y estas formas no establecen una pareja opositiva mínima. Según esta interpretación los ejemplos mencionados arriba se explican de la manera siguiente:

- a. En los ejemplos 1) y 2), los adverbios temporales funcionan como P, o sea, como el eje temporal con el que tiene una relación simultánea la frase expresada por la forma *cantaba*.
- b. En el ejemplo 3), el P se sobreentiende en el contexto y el adverbio temporal funciona como una especie de argumento de la frase expresada por la forma *cantaba* que se puede sustituir por la forma *canto*.

Este resultado demuestra, a nuestro parecer, que cuando se trata la diferencia funcional entre la forma *canté* y la forma *cantaba*, la explicación de la relación temporal tiene más validez que la aspectual basada en la oposición mínima de estas dos formas.